平成 29（2017）年度

事　業　報　告

自　平成 29 年 4 月　1 日

至　平成 30 年 3 月 31 日

公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団

Yamaha Motor Foundation for Sports　(YMFS)

静岡県磐田市新貝２５００番地

目　次

【事業報告】

Ⅰ．事業の概況 ・・ 3
Ⅱ．事業別の状況
＜スポーツチャレンジ助成事業＞　（公１）
1.スポーツチャレンジ研究助成・体験助成 ・・ 4
2.助成事業の一環としてのフォローアップ活動

＜スポーツチャレンジ体験事業＞　（公２）
1.ヨットスクール・競技会の開催・運営 ・・ 9
（１）ヨットスクールの運営
（２）競技会の開催
2.水辺・自然体験・スポーツ体験等の促進を目的とした ・・ 12
教材の提供、体験会等の開催
（１）教材の提供
（２）体験会等の開催
◇タグラグビー体験会の開催
◇全国児童　水辺の風景画コンテストの開催

＜スポーツチャレンジ啓発事業＞　（公３） ・・ 16
1.表彰（スポーツチャレンジ賞）
2.調査研究、シンポジウム等の開催
3.その他情報発信
＜10 周年記念事業＞ ・・ 22
YMFS 設立 10 周年記念事業の概要

【事務報告】 ・・ 24
1.平成 29 年度　理事会、定時評議員会他
2.理事・監事・評議員
3.事業協力者・関係者
（１）スポーツチャレンジ助成審査委員、スポーツチャレンジ賞選考委員、スポーツ教材抽選者
（２）調査研究プロジェクト、全国児童水辺の風景画コンテスト審査員
（３）ジュニアヨットスクール指導コーチ

【参考】 ・・ 30
1.平成 29・30 年度（第 11・12 期）助成対象者
2.平成 29 年度（第 10 期）国際スポーツ奨学金対象
3.第 29 回全国児童水辺の風景画コンテスト入賞者
4.平成 29 年度スポーツ教材の提供
5.第 26 回セーリング・チャレンジカップＩＮ浜名湖　参加団体と上位入賞者

【事業報告】

Ⅰ．事業の概況

平成 30 年 2 月に開催された平昌オリンピックでは、日本選手団は１３個のメダルを獲得し、冬季大会史上最高の成績を残し、続くパラリンピックにおいても、前回のソチを上回る１０個のメダル獲得という成果を上げるなど、私たちに多くの感動を与えてくれました。中でも私たちがより勇気を戴いたのは、大きな怪我や不調などの逆境を乗り越え、果敢にチャレンジしていたアスリートの姿からでもありました。こうしたスポーツメガイベントがきっかけとなり、スポーツに興味をもつ人々が増え、来年に控えたラグビーワールドカップや、2020 年東京オリンピック・パラリンピックが、多くの国民、そして世界の人々の歓喜を呼ぶ大会として成功し、その後のスポーツ振興に弾みがつくことを願っています。

しかし、残念ながら本年度のスポーツ界では、スポーツ振興に水を差すような不祥事が相次いで発生し、社会的な批判も浴びました。こうした事件を見聞きする中で、私たちは改めてフェアプレイ精神の大切さを再認識するとともに、新公益法人制度 10 年の節目に際して、社会からの信頼、組織ガバナンス、誠実性・透明性・説明責任の観点からの公益法人の姿勢や行動のあり様を考えさせられる機会でもありました。

一方、子どもたちのスポーツ・運動という身近なところに視点を移しますと、子どもたちを取り巻く地域や家庭環境等の変化などを背景として、国の第 2 期スポーツ基本計画や新学習指導要領などにも掲げられている、依然と低い体力水準や運動習慣の二極化の問題への対応、そして水辺や自然と触れ合う機会づくりやその充実に向けて、私たちも引き続き事業を通じて社会の中での役割を果たしていくことが必要と考えています。

当財団の平成 29 年度は、前年度に策定した中期事業方針「Active 5」の 1 年目にあたり、その具体的取り組みに向けた事業基盤づくりとして、実態に合わせた事業変更手続きや、定款及び関連規程改廃などを進め、昨年 12 月に内閣府の事業変更認定を得ました。これにより、助成、体験、啓発の 3 つの事業ごとに、方針、運営、管理、会計を含めたシンプルで分かり易い事業体制に再整備を行いました。また、事業全体としては、多くの関係者のご協力を得て、当初事業計画を事故なく概ね予定通り完了することができ、さらに財団設立 10 周年の節目に際して、長年にわたり事業を支えて戴いた関係の皆様に感謝の意をお伝えする機会をもつこともできました。

財団目的である「スポーツ振興」と「人材育成」への更なる貢献をめざした、中期事業方針「Active5」の 2 年目となる平成 30 年度の個別事業として、チャレンジ助成事業では、従来の奨学金給与事業を助成事業に吸収・統合し、フォローアップの充実などオリジナリティーを磨き、更に活性化し、進化したプログラムにしていくこと。チャレンジ体験事業では、事業の更なる充実を図り、子どもたちの水辺・自然体験、スポーツ体験の現場により近い活動を推進すべく事業モデルの企画・導入をめざすこと。チャレンジ啓発事業では、スポーツチャレンジ賞や調査研究成果を含め、スポーツのもつ多面的な価値・有用性などに関する情報発信を高めること。以上について、事業の更なる「質」と「社会的価値」の向上に取り組んでいきたいと考えています。

Ⅱ．事業別の状況

＜スポーツチャレンジ助成事業＞　（公１）

本事業では世界に羽ばたく逞しい人材の育成をめざし、スポーツ医・科学、スポーツ文化など、スポーツに関連する幅広い分野から、スポーツの普及・振興や競技水準の向上につながる学術的価値の高い学問・研究活動に対し研究助成を行いまた、スポーツを通して夢・目標の実現に向かってチャレンジするアスリート、指導者、審判、ジャーナリストなどの分野から、高い志、明確な目的・目標、そして具体的プロセスを持ったチャレンジスピリット、フロンティアスピリットあふれる体験活動を助成しています。

１．スポーツチャレンジ研究助成・スポーツチャレンジ体験助成

平成 29 年度（第 11 期）は、全 28 件（総額　25,980,900 円）の助成を行いました。

【平成 29 年度の活動実績】

●助成事業の概要（件数と助成額）

分　野	平成 29 年度（第 11 期）	平成 28 年度（第 10 期）
研究助成	15 件（12,035,000 円）	15 件（12,926,500 円）
体験助成	13 件（13,945,900 円）	16 件（13,749,527 円）
合　計	28 件（25,980,900 円）	31 件（26,676,027 円）

【平成 30 年度に向けた活動実績】

平成 30 年度（第 12 期）助成に向けて、全 26 件（総額　27,043,920 円）を採択しました。

●助成対象者の募集および選考の概要

・募集期間：平成 29 年 9 月 1 日（金）～11 月 13 日（月）

・募集方法：当財団ホームページおよびニュースリリースなどで告知

・募集内容：

① スポーツチャレンジ研究助成（基本・奨励）

・基　本

研究機関等で研究職として活動に従事する、満４０歳未満（応募時）の個人および、これによって構成されるグループ・団体。国籍不問。

・奨　励

大学院博士後期課程に在籍中または学位未修得者で、満３０歳未満（応募時）の個人および、これによって構成されるグループ・団体。国籍不問。

② スポーツチャレンジ体験助成（アドバンスド、ベーシック、ジュニア）

・アドバンスド

世界選手権など国際レベルでの実績を有する、中学３年生以上（応募時）の個人および、これによって構成されるグループ・団体

・ベーシック

世界選手権など国際レベルを目指す、中学３年生以上（応募時）の個人および、これによって構成されるグループ・団体

・ジュニア

ジュニア世代の国際大会での実績を有する、中学１年生以上（応募時）の個人および、これによって構成されるグループ・団体

●選考方法：

＜第 1 回審査委員会（書類選考）＞

審査分野	日　程	会　場	審査委員
体験助成	平成 29 年 12 月 7 日（木）	都内御茶ノ水 ソラシティー カンファレンスセンター	5 名
研究助成	平成 29 年 12 月 8 日（金）		8 名

＜第 2 回審査委員会（面接選考）＞

審査分野	日　程	会　場	審査委員
体験助成	平成 30 年 1 月 18 日（木）	都内御茶ノ水 ソラシティー カンファレンスセンター	5 名
研究助成	平成 30 年 1 月 19 日（金）		8 名

●応募状況および選考結果について：

分野	第 12 期（平成 30 年度）			第 11 期（平成 29 年度）		
		応募数	採択数		応募数	採択数
研究	基　本	34	11	基　本	25	10
	奨　励	22	3	奨　励	17	5
	（計）	56	14	（計）	42	15
体験	アドバンス	20	5	アドバンス	19	5
	ベーシック	31	5	ベーシック	31	5
	ジュニア	3	2	ジュニア	5	3
	（計）	54	12	（計）	55	13
	（合　計）	110	26	（合　計）	97	28

※　別紙参考　**1.**　平成 29･30 年度（第 11･12 期）助成対象者

●助成金採択実績の一覧

分　野	平成 30 年度（第 12 期）	平成 29 年度（第 11 期）
研究助成	13,893,540 円	13,945,900 円
体験助成	13,150,380 円	12,035,000 円
助成額合計	27,043,920 円	25,980,900 円

●助成金贈呈式について：

第 11 回「YMFS スポーツ・チャレンジャーズ・ミーティング」にて実施しました。

平成 30 年 3 月 1 日（木）～2 日（金）

会場：静岡県熱海市リゾーピア熱海

第 12 期生に木村理事長から助成金を贈呈

第 12 期生と審査委員

●海外留学生奨学金・外国人留学生奨学金　（前年度からの継続者）

スポーツにかかわる学問・研究を目的とした留学生に奨学金を給与する「海外留学生奨学金」および「外国人留学生奨学金」を実施しました。

「海外留学生奨学金」はスポーツの振興・普及および技能向上にかかわる学問・研究を目的に、海外に留学する日本人大学生・大学院生に奨学金を給与する制度です。

「外国人留学生奨学金」は将来母国でのスポーツ関連指導者を目指すため、スポーツの振興・普及および技能向上にかかわる学問・研究を目的に、日本に留学している外国人大学生・大学院生に奨学金を給与する制度です。平成 29 年度は、2 件（総額 2,400,000 円）の奨学金を給与しました。

平成 30 年度以降は、助成事業全体の充実を図るため、従来の海外留学生奨学金、外国人留学生奨学金は、発展的に解消し、スポーツチャレンジ助成に吸収・統合となります。

【平成 29 年度の活動実績】

●国際スポーツ奨学金事業の概要：平成 28 年度からの継続者（２名）

	平成 29 年度	平成 28 年度
海外留学生	１件	２件
外国人留学生	１件	２件

※　別紙参考 **2.** 平成 29 年度（第１０期）国際スポーツ奨学金対象者

2. 助成事業の一環としてのフォローアップ活動

スポーツチャレンジ助成対象者に対し、活動サポートやフォローアップを目的に以下のプログラムを実施しました。

①活動報告書の提出（四半期毎）

②中間報告会の開催（9 月～10 月）

③成果報告会の開催（3 月）

④スポーツチャレンジ助成対象者（チャレンジャー）やＯＢ・ＯＧの活動状況などをフェイスブック、情報誌「YMFS 通信」を通じて、事業関係者との情報共有を行うとともに、当財団ホームページを通じて広く社会の皆様に情報発信してきました。

●中間報告会について：

・スポーツチャレンジ助成者と国際スポーツ奨学生（後述）合同で開催しました。

各チャレンジャーから活動報告を受けるとともに、審査委員からは激励・質疑やアドバイスを受けました。

	日　程	会　場	チャレンジャー	審査委員
第１回	9 月 22 日（金）	都内御茶ノ水ソラシティーカンファレンスセンター	７名	７名
第２回	9 月 23 日（土）		７名	８名
第３回	10 月 13 日（金）		８名	６名
第４回	10 月 14 日（土）		８名	８名

・中間報告会では、チャレンジャーから上半期の活動経過を報告し、チャレンジャー相互での活発な質疑や審査委員からのアドバイスがされました。また、「チャレンジする心の持ち方・高め方-心技体の技に着目して」をテーマに座談会を開催し、YMFS チャレンジ体験助成 OG の後藤史氏を講師に、自身の体験をもとにした分かり易い講義やメンタルの視点から行われたゲームには審査委員を含め全員が参加しました。

チャレンジャーからは上半期の活動報告

座談会の講師を務めた後藤史氏

審査委員からはさまざまなアドバイス

審査委員も楽しく参加した座談会

●成果報告会および修了式について：

・第 11 回「YMFS スポーツ・チャレンジャーズ・ミーティング」にて開催しました。

平成 30 年 3 月 1 日（木）～2 日（金）会場：静岡県熱海市ホテルリゾーピア熱海

報告者の中から、優れた成果を上げ、スポーツ振興に貢献されたチャレンジに対し、審査委員会の選考を経て、審査委員奨励賞を授与しました。

＜審査委員奨励賞受賞者＞

研究：宮本　直人氏　　「高精度 GPS を用いたスキー計測に関する研究」

体験：梶原　悠未氏　　「2020 年東京オリンピック金メダル獲得に向けた戦略」

修了式を終えた第 11 期生と審査委員

審査委員奨励賞を受賞した研究：宮本直人氏

●第 11 回「YMFS スポーツ・チャレンジャーズ・ミーティング」の概要

スポーツにかかわる人たちのレベルや意識の向上および、社会へのスポーツの有用性訴求などを目的に、参加者一人ひとりがスポーツについて「語り」「学び」「考える」機会として、スポーツ討論会を年 1 回開催しています。平成 29 年度も前年度同様に「YMFS スポーツ・チャレンジャーズ・ミーティング」の参加者を対象に開催。

① 期間：平成 30 年 3 月 1 日（木）～2 日（金）（2 日間）

② 会場：静岡県熱海市ホテルリゾーピア熱海

③ 内容：

・平成 30 年度　（第 12 期）助成金贈呈式

・平成 29 年度　（第 11 期）成果報告会および修了式

・スペシャルリポート「平昌オリンピックを振り返って」

高嶌　遥　氏（早稲田大学、元アイスホッケー日本代表）

竹内　愛奈　氏（アイスホッケー日本代表）

・スポーツ討論会　「パフォーマンス向上につなげる論理的思考力を養う」

野口　智博　氏　日本大学文理学部　教授

第 9 回 YMFS スポーツチャレンジ賞奨励賞受賞

・特別講演　「選手を支えるコーチング」

丸山　弘道　氏　株式会社　オフィス丸山　代表取締役

第 1 回 YMFS スポーツチャレンジ賞奨励賞受賞

YMFS スポーツチャレンジ助成審査委員

※ イベントの模様をホームページの以下のアドレスに掲載しました。

URL: http://www.ymfs.jp/project/assist/scmeeting/09/

スペシャルリポート「平昌オリンピックを振り返って」
（報告：高嶌遥氏、竹内愛奈氏）

第 11 期生の成果報告会

スポーツ討論会での
グループディスカッションの様子

「選手を支えるコーチング」をテーマに特別講演
（講師：丸山弘道　氏）

＜スポーツチャレンジ体験事業＞　（公２）

本事業では、心身ともに健全な子どもたちの育成をめざし、スポーツをより身近に楽しむことや自然・水辺体験の促進に取り組んでいます。

１．ヨットスクール・競技会の開催・運営

（１）ヨットスクールの運営

本事業は、心身ともに健全で逞しい子どもたちの育成を目的に、小学生から高校生を対象として、通年型のスクール（４月～翌３月）を、神奈川県葉山町で運営しています。平成 29 年度は 36 名のスクール生を対象に活動。

スクール生の保護者を対象としたアンケートでは、本事業を通して子どもたちの逞しさや自発性、協調性など意識・行動の変化や成長を実感できたとの評価を得ています。

【平成 29 年度　年間活動実績】

●スクールの活動概要

世代別や個々のセーリング技術のレベルに合わせた独自のクラス分け（ベーシック・マスター・エキスパート・クラブ/レーシング）を行い、これに沿ったカリキュラムにより、原則、月２回から３回の通常練習を行なっています。

・セーリングに関する適切な知識、経験、技能を備えた指導者による適切な指導を行いました。

・「自然・水辺体験学習」の機会を取り入れた総合的なプログラムを通じて、海、水辺、海事に関する安全啓発を行ったほか、国際レースの運営サポートなどを通じて国際交流やボランティア活動の大切さを学びました。

・スクール運営の更なる充実に向け、保護者の理解協力を促進し、さらに指導者との一体感を醸成するため、保護者会を開催し、活動報告や意見交換を行ないました。（９月、翌３月の２回）

・スクール生は、技能成果の確認と次年度の目標確認を目的に、「第 26 回ＹＭＦＳセーリング・チャレンジカップＩＮ浜名湖」へ参加しました。

※　活動の様子はホームページに情報公開しています。
URL: http://www.ymfs.jp/project/support/junioryachtschool/

ヨットスクールの練習風景

年２回開催しているヨットスクール保護者会

日本ライフセービング協会のインストラクターによる「水辺の安全講習会」

フレンドシップレガッタ大使館レースサポート（葉山マリーナヨットクラブ）

●通常練習以外の主な活動

実施内容	日 程	場 所
平成 29 年度始業式	4 月 9 日	葉山マリーナ
江ノ島ノルウエーフレンドシップヨットレース	4 月 15～16 日	江ノ島
ＯＰ級オープンヨットレース	4 月 29 日	東京若洲
ＪＯＣジュニアオリンピックカップ 2017	5 月 5～7 日	佐賀県唐津市ヨットハーバー
フレンドシップレガッタ大使館レースサポート	5 月 20 日	葉山マリーナヨットクラブ
体力測定	5 月 27 日	逗子アリーナ
藤沢チャンピオンレース	6 月 3 日	江ノ島
2017 レーザー級関東選手権	6 月 10～11 日	江ノ島
ジュンレガッタ	6 月 18 日	江ノ島沖
水辺の安全講習会	7 月 17 日	葉山町漁協組合会館、葉山マリーナ
第 15 回全国中学校ヨット選手権	7 月 28～30 日	富山県新湊マリーナ
第 35 回東日本ＯＰ級セーリング選手権	7 月 28～30 日	葉山新港
強化練習	7 月 31～8 月 2 日	葉山マリーナ
国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会	8 月 4～6 日	東京若洲ヨット訓練所
2017 レーザーラジアル世界選手権	8 月 11～18 日	オランダメデンブリック（2 名出場）
ミキハウス東京カップ 2017	9 月 10 日	東京若洲ヨット訓練所
保護者会	9 月 24 日	葉山マリーナ
470 級ジュニア世界選手権イベントサポート	9 月 27 日	江ノ島
第 31 回小沢吉太郎記念ヨットレース	10 月 8～9 日	江ノ島
セーリングワールドカップシリーズ蒲郡大会運営協力	10 月 16～22 日	蒲郡
第 13 回全日本ブラインドセーリング運営協力	10 月 21～22 日	愛知県東海マリーナ
ＪＳＡＦ江ノ島オリンピックウィーク 2017	10 月 27～29 日	江ノ島
2017 レーザー級全日本選手権	11 月 3～5 日	山口県光市
第 49 回全日本ＯＰ級選手権	11 月 23～26 日	東京若洲ヨット訓練所
China 2017youth sailing world	12 月 9～16 日	中国山亜
2017 ジュニアユースクリスマスカップ	12 月 16～17 日	江ノ島
江ノ島ミッドウインターカップ	1 月 13～15 日	江ノ島
体力測定	1 月 22 日	葉山マリーナ
海外遠征	2 月 1～6 日	豪州パース（2 名参加）
2018 レーザーミッドウインターレガッタ	2 月 10～12 日	江ノ島
冬風ヨットレース	2 月 18 日	江ノ島
平成 29 年度修了式、保護者会	3 月 11 日	葉山マリーナ
第 26 回 YMFS ｾｰﾘﾝｸﾞ・ﾁｬﾚﾝｼﾞｶｯﾌﾟ IN 浜名湖	3 月 23～25 日	静岡県立三ケ日青年の家

●指導者育成・指導レベル向上

第 26 回セーリングチャレンジカップＩＮ浜名湖に全国から参加した、ジュニア・ユースセーラー及び指導者を対象として、元五輪日本代表による技術指導、レースにおける戦略、戦術に関する勉強会や、気象予報士によるセーリングと気象予報について講習会を実施しました。

（２）競技会の開催

本事業は、心身ともに健全な子どもたちの育成を目的に、全国のジュニア・ユースセイラーが一堂に会し、日頃の練習成果や次年度の目標確認の場として、また、技術指導や選手・指導者同士の交流を通じて、全体的レベルアップと技術向上に資するため、「学べるレガッタ」を特徴として開催しています。

●第 26 回「YMFS セーリング・チャレンジカップ　IN　浜名湖」の概要

・開催日時：平成 30 年 3 月 23 日（金）～25 日（日）（３日間）

・開催場所：静岡県立三ケ日青年の家

・共同主催：（公財）ヤマハ発動機スポーツ振興財団、NPO 法人静岡県セーリング連盟

・公認団体：（公財）日本セーリング連盟（承認番号 Ｈ２８-４８）

・運営協力：NPO 法人静岡県セーリング連盟

・協　　賛：三井住友海上火災保険（株）、ヤマハ（株）、（株）ワイズギア、（株）舵社、（株）ヤマハトラベルサービス、（株）ノースセール・ジャパン、パフォーマンスセイルクラフトジャパン（株）、（有）SAIL FAST、（株）丸玉運送

・後　　援：スポーツ庁、（公財）日本体育協会、静岡県、静岡県教育委員会、（公財）静岡県体育協会、浜松市、浜松市教育委員会、（公財）浜松市体育協会、中日新聞東海本社、静岡新聞社・静岡放送、静岡朝日テレビ、NHK 静岡放送局、静岡第一テレビ、テレビ静岡、K-mix、FM Haro!、日本オプティミストディンギー協会、日本レーザークラス協会、日本 FJ 協会、日本 420 協会、ミニホッパー協会、（一社）日本ジュニアヨットクラブ連盟

・協　　力：静岡県立三ケ日青年の家、ヨットリーダーズクラブ、南平自治会

・競技種目：OP 級、ミニホッパー級、レーザー4.7 級、レーザーラジアル級、FJ 級、420 級

※国際レーザー４．７級、レーザーラジアル級は、世界選手権国内選考会を兼ねます。

・参加資格：ジュニアおよびユース選手

●全国から 40 クラブ（130 隻／選手 153 名）が参加し、クラブ数、隻数では過去最大の大会となりました。

●（独法）日本スポーツ振興センター「スポーツ振興くじ助成金」の助成を受けて開催しました。

（交付決定額　3,787 千円）当該助成金は、指導講師、医師、審判員・スタッフ等への謝金、大会役員への宿泊費・交通費、運営艇等の借用料・運送料等に使用しました。

●大会期間中、特別講師による技術指導・勉強会を開催しました。

＜特別講師の紹介＞

・佐々木　共之　氏（日本レーザークラス協会　強化委員長）

・杉山　武靖　氏（気象予報士、静岡県セーリング連盟理事）

・高橋　昌威　氏（日本レーザークラス協会強化副委員長）

・浜崎　栄一郎氏（シドニー五輪代表スループ強化指導担当）

今大会もスポーツ振興センターの助成を受けて開催

※　別紙参考　**5.**　第 26 回「YMFS セーリング・チャレンジカップ　IN　浜名湖」参加団体と上位入賞者

表彰式後、全員で記念撮影

レースの模様

レース後の勉強会の様子

２．水辺・自然体験・スポーツ体験等の促進を目的とした教材の提供、体験会等の開催

（１）教材の提供

本事業は、スポーツ教材の活用を通じて、子どもたちが楽しく体を動かすきっかけとなり、スポーツ好きな子どもの増加、体力・運動能力の向上、心身の健全な育成の一助となることを目的に、全国の幼稚園、小学校、中学校、ジュニアスポーツクラブ、総合型地域スポーツクラブなどを対象に実施しています。

平成 29 年度は、合計 125 校・団体に提供しました。（被災地支援 5 団体含む）

また、4 年目を迎えた指導サポート付きタグラグビー教材の提供「はじめてのタグラグビー教室」は、応募のあった 11 の小学校で開催しました。これらを通じて全国で 11,000 名を超える子どもたちや教員・指導者が参加した活動になりました。

●平成 29 年度「スポーツ教材の提供」の概要：

・募集期間：平成 29 年４月 13 日（金）～６月８日（金）

・使用対象：幼児から中学生

・提供対象：「スポーツ機会の充実に向けた新たな取り組み」を計画している団体

※団体とは、保育園、幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校、児童養護施設、教育委員会、体育協会、スポーツ少年団・クラブ・スクールなどスポーツに実際に取り組む活動単位を指します。

・提供教材：①サッカーボール　　②タグラグビーセット

・募集方法：当財団ホームページおよび教育委員会など通じて告知

・選考方法：書類審査の上、第三者による抽選により決定

・結果通知：当財団ホームページに抽選結果掲載後、提供先団体へメールにて通知

・提供方法：７月中旬に提供団体へ発送

●申請状況および抽選結果について：

・申請数　：875 団体（前年度 862 団体）

・抽選会　：６月 15 日（木）都内東京会館貿易センタービル内

書類審査の上、（公財）日本体育協会　副会長　岡崎助一氏による抽選

・抽選結果：120 校・団体（前年度 135 校・団体）

※　別紙参考　**4.**　平成 29 年度　スポーツ教材の提供先団体

●東日本大震災及び熊本地震の被災地小学校などへの支援活動

被災の影響で、スポーツ機会の減少による体力低下や肥満児童の増加などの課題を抱えているなど教育現場からの声を踏まえ、個別に実情を確認の上、本年度は被災地の小学校など合計 5 校・団体に提供しました。（前年度 11 団体）

抽選者：（公財）日本体育協会　岡崎副会長

スポーツ教材を活用してタグラグビー体験

（２）体験会等の開催

◇タグラグビー体験会の開催：「はじめてのタグラグビー教室の開催」

ヤマハ発動機（株）の協力を得て、直接指導可能な当財団近隣地域（静岡県西部地域の磐田市・袋井市・掛川市・周智郡森町）をモデルエリアとして、当地区の小学校を対象に募集を行い、申請のあった１１校・団体に実施しました。その結果、児童と教員併せて 1,009 名が参加した活動になりました。

実施した小学校		日　程	指導者教員対象	児童対象
1	袋井市立浅羽北小学校	5 月 31 日	2 名	65 名
2	袋井市立西小学校	6 月 23 日	20 名	77 名
3	磐田市立富士見小学校	9 月 1･4 日	―	111 名
4	磐田市立豊岡南小学校	9 月 20 日	2 名	70 名
5	磐田市立大藤小学校	10 月　2 日	2 名	42 名
6	掛川市立千浜小学校	10 月　6 日	4 名	66 名
7	袋井市立浅羽東小学校	10 月 11 日	2 名	48 名
8	袋井市立笠原小学校	10 月 18 日	1 名	23 名
9	磐田市立大藤小学校	11 月　6 日	3 名	41 名
10	磐田市立福田小学校	11 月 29 日	2 名	64 名
11	磐田市立福田小学校	11 月 15 日	1 名	38 名
12	磐田市立福田小学校	12 月　4 日	2 名	64 名
13	袋井市立浅羽南小学校	1 月 26 日	15 名	―
14	袋井市立浅羽南小学校	2 月　5 日	2 名	60 名
15	袋井市立高南小学校	2 月 5･9 日	15 名	68 名
16	磐田市立富士見小学校	2 月 16 日	3 名	96 名
合　計　11 小学校		18 回	76 名	933 名

●提供教材の効果的な活用事例をホームページで公開・掲載しています。

URL: http://www.ymfs.jp/project/support/supply/

トップリーグ選手ＯＢの指導ではじめてのタグラグビー体験教室

小学校教員もタグラグビー体験

◇**全国児童 水辺の風景画コンテストの開催**

本事業は、子どもたちの自然体験や水辺体験の促進が社会的な課題となっている中で、小学生以下の児童・幼児を対象に、海や川などの水辺に出かけ、そこで得た、さまざまな体験をテーマに絵を描くことによって、水辺への興味・関心を高め、また、表現力や感性を育むことを目的として絵画コンテストを開催しています。

今年度は第 29 回として開催し,全国から総数 9,696 点の応募があり、２回の審査会を経て、入選作品 601 点(入賞作品４０点を含む)を決定しました。

＜第 29 回全国児童　水辺の風景画コンテストの概要＞

・募集期間：平成 29 年７月１日（土）～9 月 29 日（金）

・対　　象：小学生および幼児

・募集方法：当財団ホームページおよび募集リーフレットなどにて告知

・審査日程：予選会　：　10 月 17 日（火）

　　本選会　：　10 月 24 日（火）

・入選および入賞作品発表：１１月１日（水）

・表　　彰：入賞４０点

　　最優秀賞　：　文部科学大臣賞、国土交通大臣賞、環境大臣賞、農林水産大臣賞

　　特別賞　　：　審査員長賞、日本マリン事業協会会長賞、日本ユネスコ協会連盟賞、日本マリーナ・ビーチ協会会長賞、ジャパンゲームフィッシュ協会会長賞、国立青少年教育振興機構理事長賞、ヤマハ発動機賞、ＹＭＦＳ特別賞（水辺の生き物、水辺の風景）

　　優秀賞　　：　金・銀・銅賞（幼児、小学校低学年、小学校高学年各部門）

　　入　選　　：　601 点（入賞作品 40 点、秀作 260 点、佳作 301 点）

・特別協賛　　：ヤマハ発動機株式会社

・協　　賛　　：Love the Earth　実行委員会、三井住友海上保険（株）、（株）舵社、マルマン（株）、（株）ワイズギア

・後　　援　　：文部科学省、国土交通省、農林水産省、環境省、（一社）日本マリン事業協会、（公社）日本ユネスコ協会連盟、（NPO）ジャパンゲームフィッシュ協会、（一社）日本マリーナ・ビーチ協会、（独法）国立青少年教育振興機構

●応募状況について：

・作品数：9,696 点（前年度 10,321 点）

・団体数：679 団体（前年度 729 団体）※全国の保育園、幼稚園、小学校、絵画教室など

●審査会について：

・予選会：専門家による審査で入選作品決定

・本選会：専門家、後援省庁および団体による審査で入賞作品決定

	日　程	会　場	審査員
予選会	10 月 17 日（火）	ヤマハ発動機（株）コミュニケーションプラザ	４名
本選会	10 月 24 日（火）	都内日展会館	１６名

●審査結果について：

・入選作品　601 点　（入賞作品 40 点、秀作 260 点、佳作 301 点）

※　別紙参考 **3.**　第 29 回「全国児童　水辺の風景画コンテスト」入賞者

●各大臣賞表彰式：受賞者在籍校などにて開催

賞　名	日　程	開催会場
農林水産大臣賞	12 月 6 日（水）	神奈川県海老名市役所
環境大臣賞	12 月 10 日（日）	ヤマハ発動機東日本営業所
文部科学大臣賞	12 月　6 日（水）	神奈川県海老名市役所
国土交通大臣賞	12 月 12 日（火）	奈良県近畿大学附属小学校

受賞者の在籍校で表彰式を開催
写真は、近畿大学付属小学校

●入賞作品紹介：

・ホームページにて情報公開しています。

URL:http://www.ymfs.jp/project/support/contest/2017/

・「ジャパンインターナショナルボートショー2018」（3 月 8 日～11 日。横浜市・パシフィコ横浜）にて展示

※　公式入場者数：　53,400 人　（前年度　52,252 人）

・ヤマハ発動機（株）コミュニケーションプラザ２Ｆ（１～２月）にて展示

審査会（予選会）の様子

審査会（本選会）の様子

審査員の皆さん

入賞作品の展示・公開

「ジャパンインターナショナルボートショー2018」

＜スポーツチャレンジ啓発事業＞　　（公３）

本事業ではスポーツを通じた心豊かな社会づくりに貢献するために、「スポーツチャレンジ賞」の表彰や調査研究活動をはじめ、各事業の活動実績や知見、情報をより広く社会に発信する活動を行なっています。

１．表彰（スポーツチャレンジ賞）

本事業は、スポーツ振興において多大な実績を残すとともに、その功績によって社会の活性化に貢献した人物・団体を表彰します。スポーツに関する技術、指導、研究、普及、ジャーナリズムなど幅広い分野において、輝かしい功績をあげ、且つ、これまで注目を浴びることの少なかった「縁の下の力持ち」的な人物・団体を対象としている点が本賞の特徴となっています。尚、本賞は「功労賞」と「奨励賞」の２部門で構成されています。

・第　9 回（平成 28 年度）スポーツチャレンジ賞の表彰式を平成 29 年 4 月 21 日（金）に都内会場で開催。
・第 10 回（平成 29 年度）スポーツチャレンジ賞の受賞者を決定しました。

●賞の概要（功労賞、奨励賞）：
・後援　：（公財）日本体育協会、（公財）日本オリンピック委員会
（公財）日本障がい者スポーツ協会・日本パラリンピック委員会

（功労賞）
・対象者：既に優れた成果をあげ、功をなした人物・団体
・内　容：長年もしくは過去に行われ、現在のスポーツ振興の礎となるような貢献や、先駆的実績を誇るチャレンジで、注目を浴びることの少なかった、本来高い評価を得るに相応しい、「縁の下の力持ち」的な存在を表彰します。

（奨励賞）
・対象者：その年、高い成果をあげ、今後さらなる成長が期待される人物・団体
・内　容：短期的もしくは中期的に行われ、その年、極めて高い成果をあげ、今後のスポーツ振興に大きな影響力の発揮が期待されるチャレンジで、注目を浴びることの少なかった、本来高い評価を得るに相応しい、「縁の下の力持ち」的な存在を表彰します。

【前年度（平成 28 年度）からの継続活動実績】
●第 9 回（平成 28 年度）スポーツチャレンジ賞の概要：
・候補者推薦募集：平成 28 年 9 月 14 日（水）～11 月 15 日（火）
・選考委員会　　：第 1 回　平成 28 年 12 月　8 日（木）、9 日（金）
第 2 回　平成 29 年　1 月 19 日（木）、20 日（金）
・表彰式　　：平成 29 年 4 月 21 日　（金）都内如水会館

●各賞受賞者のご紹介

（功労賞）　今村　大成　（いまむら　たいせい）氏
株式会社タマス　取締役／Tamasu Butterfly Europa Gmbh　社長
推薦者：公益財団法人日本卓球協会　星野一朗専務理事
「日本若手卓球選手の武者修行を支え続けるデュッセルドルフの父」

今村大成氏

（奨励賞）　野口　智博（のぐち　ともひろ）　氏
日本大学文理学部　教授／木村敬一選手パーソナルコーチ
推薦者：公益財団法人日本障がい者スポーツ協会
「障害者スポーツ全体の課題に先鞭をつけた挑戦～
トップ選手の指導からパラアスリート強化の現場へ～」

野口智博氏

●表彰式
・開催日：平成 29 年 4 月 21 日（金）
・開催場所：都内如水会館
・参加者：受賞者、推薦者、応援者、報道機関、選考委員、理事等関係者　合計約 100 名
※　当日の模様は当財団ホームページにて公開・掲載しています。
URL: http://www.ymfs.jp/project/culture/prize/07/commendation/

今村大成氏と応援者の皆さん

野口智博氏と応援者の皆さん

表彰式後の交流会の様子

表彰式で挨拶する木村理事長

●第 9 回（平成 28 年度）スポーツチャレンジ賞受賞者の功績を紹介
受賞者の功績や、知られざる足跡など詳細情報を、当財団ホームページ、スペシャルウェブコンテンツ（特集記事）「BACK STORIES（バック・ストーリーズ）」の中で紹介しています。
URL: http://www.ymfs.jp/project/culture/prize/backstories/

チャレンジの軌跡を追う対談
（写真左が今村大成氏）

チャレンジの軌跡を追う
（写真左が野口智博氏）

【平成 29 年度の活動実績】

●第 10 回（平成 29 年度）スポーツチャレンジ賞の概要：

・候補者推薦募集：平成 29 年 9 月 15 日（金）～11 月 13 日（月）

・募集方法　　：当財団ホームページ及びニュースリリースなどで告知

・選考委員会　　：第 1 回　平成 29 年 12 月 7 日（木）、 8 日（金）都内会場

　　：第 2 回　平成 30 年　1 月 18 日（木）、19 日（金）都内会場

・表 彰 式　　：平成 30 年 4 月 13 日（金）　都内如水会館

●受賞者選考について：

競技団体、大学、報道機関などから 7 件の候補者推薦を受け、当財団に設置した有識者・専門家による選考委員会（２回）を経て受賞者を決定しました。

選考委員会	日　程	会　場	審査委員
第 1 回	12 月 7 日（木）	御茶ノ水ソラシティー	4 名
	12 月 8 日（金）	カンファレンスセンター	6 名
第 2 回	1 月 18 日（木）	同　上	7 名
	1 月 19 日（金）		8 名

●各賞受賞者紹介

（奨励賞）　狩野　美雪（かのう　みゆき）氏　　日本代表女子デフバレーボール監督

「元トップ選手の経験を活かした指導で、2017 年デフリンピック金メダルを獲得」

2.調査研究、シンポジウム等の開催

スポーツ振興やスポーツ文化向上にかかわる社会的課題の解決に寄与するため、当財団の特徴を活かし得る分野において調査研究活動を行い、その成果を広く社会に発信しています。

平成２９年度は、前年度に引き続き、障害者スポーツとトップスポーツの２つのプロジェクトで活動を行いました。6 年目となる障害者スポーツ分野では「障害者スポーツの振興と強化に関する調査研究－テレビ CF、大学の先進的取り組み、地域現場の実態に注目して－」に取り組み、活動結果を報告書として発行しました。

トップスポーツ分野では目標の再設定を含む戦略検討を行い、結果として「トップスポーツを活用した地域活性化・地域スポーツ振興活動への貢献」を成果目標に定め、次年度からの活動実施に向けた準備作業を行いました。

前年度実施した「障害者スポーツのテレビ放送における社会発信の変化」に関する調査結果の社会発信強化を目的にシンポジウムを開催し、約 80 名の参加者とともに、障害者スポーツの抱える課題や社会的環境改善策などについて活発な意見交換を行いました。

●調査研究プロジェクト会議実績

①障害者スポーツ・プロジェクト

・第１回　6月 26日（月）　於：日本福祉大美浜キャンパススポーツ・ラボ・SALUTO　出席９名

・第２回　8 月 10 日（木）於：ヤマハ発動機株式会社　東京事務所　出席８名

・第３回　10月 25日（水）　於：ヤマハ発動機株式会社コミュニケーションプラザ　出席10名

・第４回　3月 28日（水）　於：ヤマハ発動機株式会社　東京事務所　出席10名

②トップスポーツ・プロジェクト

・第１回　6月 2日（金）　於：TKPガーデンシティ御茶ノ水　出席９名

・第２回　8 月 8 日（火）　於：TKP ガーデンシティ御茶ノ水　出席４名

●シンポジウム 2017「障害者スポーツのテレビ放送における社会発信の変化」

障害者スポーツシンポジウム

参加者からの積極的な質疑

①　概要

日程：11 月 23 日（木・祝）会場：都内　弘済会館

実施内容および登壇者

・基調報告（小淵氏）

・パネリスト報告（佐藤氏、若山氏、太田氏、刈屋氏）

・パネルディスカッション

藤田紀昭　氏（日本福祉大学　スポーツ科学部　教授）

佐藤圭太　氏（パラ陸上選手、日本代表、パラリンピアン）

若山英史　氏（ウィルチェアーラグビー選手、日本代表、パラリンピアン）

太田慎也　氏（プロデューサー、WOWOW “WHO I AM”制作）

刈屋富士雄　氏（NHK解説主管、スポーツ担当）

②　シンポジウム2017動画レポートを財団ウェブにて公開

・シンポジスト報告　　：基調報告、パネリスト報告

・パネルディスカッション　　：コーディネーターによるパネリストとのディスカッションと参加者との質疑応答

・2020年に向けた抱負　　：パネリスト4名による東京2020パラリンピックに対する想い、抱負

・パネリスト特別インタビュー：パネリスト4名に対するインタビュー映像

・YMFS が障害者スポーツ調査研究に取組む意義：活動経緯の説明

●障害者スポーツ報告書の発行

①報告書タイトル

「 障害者スポーツの振興と強化に関する調査研究

-テレビCF、大学の先進的取り組み、地域現場の実態に注目して- 」

②報告書の概要（全5章で構成）

【第1章】平成29年度活動総括

活動内容トピックス。新規の取組みテーマや視点に関して紹介。

【第2章】テレビコマーシャルにおける障害者スポーツ調査

2008～2017年の期間、障害者スポーツ（選手・競技）を採用したテレビCF制作状況を分析。

【第3章】大学の先進的取り組み調査

障害学生や障害者スポーツの支援に先進的な取組みを行っている大学等にインタビュー。

【第4章】地域現場における実態調査

静岡県内を対象に各地域で開催の障害者スポーツ教室や競技大会の参加者を調査。

【第5章】シンポジウム2017「障害者スポーツのテレビ放送における社会発信の変化」抄録
障害者スポーツ関連のテレビ制作者やトップ選手を招き開催した内容を紹介。

③YMFS障害者スポーツ・プロジェクト　（※五十音順。平成30年3月29日現在）

監　修：浅見 俊雄 氏　東京大学・日本体育大学 名誉教授／当財団 理事
リーダー：藤田 紀昭 氏 日本福祉大学 スポーツ科学部 教授
メンバー：小淵 和也 氏（公財）笹川スポーツ財団 スポーツ政策研究所 主任研究員
河西 正博 氏 同志社大学 スポーツ健康科学部 助教
齊藤 まゆみ氏 筑波大学体育系 准教授
中森 邦男 氏（公財）日本障がい者スポーツ協会 強化部 部長／
日本パラリンピック委員会 事務局長

●大学環境調査

① 日程：平成29年9月13日（水）
会場：北翔大学（北海道江別市）　回答者：５名
内容：教員および競技団体関係者インタビュー、車椅子ソフトボール授業視察

② 日程：平成 29 年 9 月 14 日（木）
会場：日本体育大学附属高等支援学校（北海道網走市）回答者：３名
内容：教員インタビュー、施設見学

③ 日程：平成 29 年 10 月 6 日（金）
会場：大阪府立大学（大阪府羽曳野市）　回答者：１名

④ 日程：平成 29 年 11 月 20 日（月）、平成 30 年 1 月 12 日（金）
会場：筑波大学（茨城県つくば市）／茨城県庁（茨城県水戸市）回答者：４名
内容：教員および行政関係者インタビュー

調査報告書を情報公開

北翔大学調査の様子

日体大附属高等支援学校調査の様子

●静岡県における障害者スポーツ環境調査

＜みんなでスポーツ教室での調査＞

① 県中部地区

＜静岡市＞
日程：７月 22 日（土）
会場：静岡県総合社会福祉会館体育館

＜島田市＞
日程：7月30日（日）
会場：島田市ローズアリーナ武道場

② 県東部地区

＜下田市＞
日程：8月5日（土）
会場：サンワーク下田

静岡県内調査の様子

７月 30 日（日）島田会場

＜沼津市＞
日程：8月20日（日）
会場：あしたか太陽の丘体育館

③　県西部地区

＜浜松市＞
日程：8月26日（土）
会場：浜松特別支援学校体育館

＜浜松市＞
日程：10月14日（日）
会場：浜松市西部特別支援学校体育館

8 月 26 日（日）浜松会場

10 月 14 日（日）浜松会場

＜第１８回わかふじスポーツ大会での調査＞

①フライングディスク
日程：８月 27 日（日）
会場：草薙総合運動場陸上競技場（静岡市）

②陸上競技
日程：９月３日（日）
会場：草薙総合運動場陸上競技場（静岡市）

③サッカー／グランドソフトボール
日程：９月 10 日（日）
会場：エコパ小笠山総合運動公園グラウンド（袋井市）

④ボッチャ
日程：９月 23 日（土）
会場：清水総合運動公園体育館（静岡市）

⑤水泳
日程：10月8日（日）
会場：富士総合運公園水泳競技場（富士市）

8 月 27 日（日）静岡会場
（フライングディスク競技）

３．その他情報発信

当財団ホームページでは、スポーツ振興やスポーツ文化向上による社会の活性化に寄与することを目的に、広く社会に対して事業活動の情報を発信しています。また、刊行物やリリース発行などでの普及広報活動の充実にも努めています。

【ホームページの運営】 当財団ホームページ　URL: http://www.ymfs.jp/

●主な掲載内容：
・各事業活動の告知（案内、募集、結果報告など）
・「スポーツチャレンジ助成」対象者の実像を紹介（チャレンジャーズファイルなど）
・「スポーツ・チャレンジャーズ・ミーティング」の報告（スポーツ討論会や講演会など）
・「スポーツチャレンジ賞」受賞者の人物像を紹介(BACK STORIES)
・「ジュニアヨットスクール葉山」の活動紹介
・「セーリング・チャレンジカップ　IN　浜名湖」の開催報告
・「スポーツ教材の提供」の模範的な活用事例の紹介

当財団ホームページ

・「全国児童　水辺の風景画コンテスト」の実施報告
・調査研究活動に関する報告書やシンポジウム等の情報

●財団ホームページのアクセス数：
・平成 29 年度：328,430ＰＶ（平成 28 年度：302,098ＰＶ）
※ＰＶ＝PAGE VIEW

●ニュースリリース発行数：12 本（平成 28 年度 12 本）

●Facebook による情報発信
・概　要
① スポーツチャレンジ助成事業における助成対象者（ＯＢ・ＯＧ含む）の活動状況を対象者間、及び審査委員、事務局を含めた情報共有を促進。
② 日常行われる各事業（行事）の様子などについて事業関係者等を対象として情報共有を促進。

●刊行物の発行：
当財団事業の円滑な運営を目的に、各事業の結果や活動状況、社会的な意義などについて、主として事業関係者や支援者の皆さんを含め、情報共有を促進しています。

・「平成 28 年度年間事業報告書」 Yearly Digest　500 部
・「平成 29 年度調査研究報告書」　3,000 部
・「ＹＭＦＳ通信」 毎月発行　メール配信先約　650 か所

月次で配信する「YMFS 通信」

＜ＹＭＦＳ設立１０周年記念事業の概要＞　（１０周年事業準備金を使用）

当財団設立 10 年の節目にあたり、事業協力者・関係者の皆さんと共に「感謝の集い」を開催した他、10 年の記録としての記念誌発行や、新中期事業方針「Active 5」に沿った、情報発信媒体の総合的に見直しなどを行いました。尚、本事業に関わる資金は 10 周年事業準備金を活用しています。

（１）感謝の集い
日程：平成 29 年 6 月 15 日（木）
会場：都内東京会館浜松町
参加：１０２名
（関係団体、役員、事業協力者、スタッフ他）

旧交を温め、更なる発展を誓った「感謝の集い」

（２）記念誌発行

日程：平成 29 年 6 月 15 日（木）

発行部数：初版 200 冊

（３）財団広報誌発行

日程：平成 29 年 6 月 15 日（木）

発行部数：初版 10,000 冊

（４）ホームページリニューアル

日程：平成 29 年 6 月 15 日（木）

（５）スポーツ振興支援事業

スポーツ教材提供先　15 か所増加し、135 か所へ

【事務報告】

1．平成 29 年度　理事会、評議員選定委員会、定時評議員会

（1）理事会

●第 1 回理事会　平成 29 年 5 月 26 日（金）　都内丸の内マイプラザ

【決議事項】

第 1 号議案　平成 28 年度事業報告承認の件

第 2 号議案　平成 28 年度計算書類等承認の件

第 3 号議案　定款変更承認の件

第 4 号議案　定時評議員会招集の件

第 5 号議案　評議員候補者推薦の件

第 6 号議案　評議員選定委員選任の件

第 7 号議案　審査委員選任の件

第 1 回理事会

【報告事項】

・平成 28 年度第 3 回理事会（2 月）以降の事業活動

・その他

●第 2 回理事会　平成 29 年 10 月 20 日（金）　都内丸の内マイプラザ

【決議事項】

第 1 号議案　内閣府への変更認定申請の件

第 2 号議案　日本スポーツ振興センター助成金の経理処理に関する改善方策の件

第 3 号議案　個人情報保護規程一部改正の件

【報告事項】

・平成 29 年度上半期事業報告、下半期事業活動

・平成 29 年度中間決算の概要と今後の見通し

第 2 回理事会

●第 3 回理事会　平成 30 年 2 月 27 日（火）都内丸の内マイプラザ

【決議事項】

第 1 号議案　平成 30 年度事業計画承認の件

第 2 号議案　平成 30 年度収支予算承認の件

第 3 号議案　定款事業変更に伴う奨学金給与規程廃止及び審査委員会規程改正の件

第 4 号議案　コンプライアンス規程改正の件

【報告事項】

・平成 29 年度事業概況報告

・平成 29 年度収支見通報告

・その他、業務執行状況の報告

第 3 回理事会

第 3 回理事会

（２）評議員選定委員会　平成 29 年 6 月 15 日（木）都内東京会館

【議案】 評議員選任の件

（重任）　塩谷　立、武井　一浩、西山　正樹、畫馬　明、柳　弘之、柳澤　伯夫

（新任）　伊香賀正彦、泉　正文、佐久間　優

評議員選定委員会（6 月）

（３）定時評議員会　　平成 29 年 6 月 15 日（木）　都内東京会館

【決議事項】

第 1 号議案　平成 28 年度計算書類等承認の件

第 2 号議案　定款変更の件

第 3 号議案　監事 2 名選任の件　（新任）市村　清、友清　立樹

【報告事項】

・平成 28 年度事業報告

・平成 29 年度事業計画報告、その他

定時評議員会（6 月）

＜理事・監事・評議員＞

●理　事　（総数９名）　　敬称略　五十音順

平成 30 年 3 月 31 日時点

役職	常・非常勤	氏　名	現　　職
理事長	非常勤	木村　隆昭	ヤマハ発動機株式会社　顧問
常務理事	常勤	大庭　義隆	公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団　事務局長兼任
理事	非常勤	浅見　俊雄	東京大学　名誉教授、日本体育大学　名誉教授
〃	〃	伊坂　忠夫	立命館大学 スポーツ健康科学部学部長　教授
〃	〃	齋藤　順三	ヤマハ発動機株式会社 上席執行役員人事総務本部長
〃	〃	定本　朋子	日本女子体育大学 大学院研究科長・基礎体力研究所所長　教授
〃	〃	千足　耕一	東京海洋大学　学術研究院　教授
〃	〃	花内　　誠	株式会社電通 スポーツ局スポーツ２部　部長
〃	〃	柳　　敏晴	神戸常盤大学 教育イノベーション機構長 教授

●監　事　（総数２名）

平成 30 年 3 月 31 日時点

常・非常勤	氏　名	現　　職
非常勤	市村　清	新日本有限責任監査法人　シニアパートナー　公認会計士
〃	友清　立樹	ヤマハ発動機株式会社　統合監査部長

●評議員　（総数９名）

平成 30 年 3 月 31 日時点

常・非常勤	氏　名	現　　職
非常勤	伊香賀　正彦	ヤマハ発動機株式会社　監査役
〃	泉　正文	公益財団法人日本体育協会　副会長兼専務理事
〃	佐久間　優	一般財団法人日本海洋レジャー安全・振興協会　理事長
〃	塩谷　立	衆議院議員
〃	武井　一浩	弁護士
〃	西山　正樹	ヤマハ発動機株式会社　顧問　（元警察庁中部管区警察局長）
〃	畫馬　明	浜松ホトニクス株式会社　代表取締役社長
〃	柳　弘之	ヤマハ発動機株式会社　代表取締役会長
〃	柳澤　伯夫	柳沢金融経済研究所 代表（元衆議院議員）

＜事業協力者・関係者＞

●スポーツチャレンジ助成審査委員　（総数 18 名）　　敬称略　五十音順

平成 30 年 3 月 31 日時点

※以下の審査委員はスポーツチャレンジ賞選考委員を兼ねています。

役職	氏　名	現　職	備　考
審査委員長	浅見　俊雄	東京大学名誉教授・日本体育大学名誉教授	運動生理学
審査委員	伊坂　忠夫	立命館大学スポーツ健康科学部学部長教授	バイオメカニクス
〃	衞藤　　隆	東京大学名誉教授・大阪教育大学客員教授	健康教育学
〃	遠藤　保子	立命館大学産業社会学部教授	文化人類学
〃	小島　智子	追手門学院大学客員教授	元 NFL チアリーダー
〃	景山　一郎	日本大学生産工学部教授	機械工学
〃	川上　泰雄	早稲田大学スポーツ科学学術院教授	運動生理学
〃	北川　　薫	梅村学園学事顧問、中京大学名誉教授	運動生理学
〃	草加　浩平	東京大学大学院工学系研究科ダイレクタ	工学系研究科
〃	定本　朋子	日本女子体育大学大学院研究科長、 基礎体力研究所所長　教授	運動生理学
〃	篠原　菊紀	諏訪東京理科大学共通教育センター教授	健康教育学
〃	杉本　龍勇	法政大学経済学部教授	スポーツ経済学
〃	髙橋　義雄	筑波大学体育系准教授	スポーツ社会学スポーツマネジメント
〃	福永　哲夫	東京大学名誉教授、鹿屋体育大学特任教授	バイオメカニクス
〃	増田　和実	金沢大学人間社会研究域人間科学系教授	運動生理学
〃	丸山　弘道	株式会社オフィス丸山弘道　代表取締役	テニス指導者
〃	村田　　亙	専修大学ラグビー部監督	元ラグビー選手
〃	ﾖｰｺｾﾞｯﾀｰﾗﾝﾄﾞ	公益財団法人日本体育協会常務理事	元バレーボール選手

●スポーツ教材提供　抽選者

平成 29 年 3 月 31 日時点

役　職	氏　名	現　　職
評議員	岡崎　助一	公益財団法人日本体育協会　副会長

●調査研究プロジェクトメンバー

平成 30 年 3 月 31 日時点

プロジェクト	役　職	氏　名	現　職
担当理事		浅見　俊雄	東京大学名誉教授・日本体育大学名誉教授
障害者スポーツプロジェクト	リーダー	藤田　紀昭	日本福祉大学　教授
	メンバー	齋藤まゆみ	筑波大学　体育系　准教授
	〃	河西　正博	びわこ成蹊スポーツ大学スポーツ学部　専任講師
	〃	小淵　和也	（公財）笹川スポーツ財団スポーツ政策研究所研究員
	アドバイザー	中森　邦男	日本障がい者スポーツ協会強化部長
トップスポーツプロジェクト	リーダー	岡本　純也	一橋大学大学院商学研究科　准教授
	メンバー	澁谷　茂樹	（公財）笹川スポーツ財団スポーツ政策研究所主任研究員
	〃	澤井　和彦	明治大学商学部　准教授
	〃	中村　英仁	一橋大学大学院商学研究科　専任講師
	アドバイザー	涌田　龍治	京都産業大学経営学部　准教授

●第 29 回全国児童 水辺の風景画コンテスト審査員（総数１６名）

平成２９年 10 月 1 日時点

役　職	氏　名	現　職
審査員長	工藤　和男	（一社）創元会　会長、（公社）日展　会員
審査員	小沢　文雄	文部科学省生涯学習政策局青少年教育課 青少年体験活動推進専門官
	滝川　尚樹	国土交通省港湾局海洋・環境課 専門官
	有泉　安浩	環境省水・大気環境局水環境課　課長補佐
	田中　健治	農林水産省水産庁漁港漁場整備部計画課　課長補佐
	服部　譲司	（一社）創元会　会員、公益社団法人日展　会友
	杉山　悦照	（一社）創元会　会員、浜松美術協会　会員
	国広　富之	俳優、画家
	吉海 浩一郎	（一社）日本マリン事業協会　専務理事
	間瀬　雅晴	（公社）日本ユネスコ協会連盟　理事
	山下　雅人	（一社）日本マリーナ・ビーチ協会　理事
	岡田　正文	NPO 法人ジャパンゲームフィッシュ協会　事務局　事業部長
	平川　康弘	（独法）国立青少年教育振興機構　総務企画部　部長
	小畑　利栄	ヤマハ発動機（株）人事総務本部　総務部　部長
	千足　耕一	東京海洋大学 学術研究院　教授、当財団　理事
	大庭　義隆	（公財）ヤマハ発動機スポーツ振興財団　常務理事兼事務局長

●ジュニアヨットスクール葉山　指導員　（総数 21 名）

平成 30 年 3 月 31 日時点

	クラス	役　職	氏　名	備　　考
1	全クラス	校　長 （主任コーチ）	箱守　康之	日本体育協会公認上級コーチ 赤十字救急法救助員
2		コーチ	小池　哲生	
3		サポートコーチ	鎌田　祥一	日本体育協会公認スポーツリーダー
4	エキスパート／クラブ	コーチ	齋藤　浩二	
5			若林　友世	
6			深沢　瑛里	
7			岡崎　一輝	
8			柴田　牧子	
9			飛内　航太	
10	ベーシック／マスター	主任コーチ	湯原　浩一	日本体育協会公認スポーツリーダー、救急救助員
11		コーチ	上松　慮生	日本体育協会公認コーチ、救急救助員
12			石上　　潔	
13			長谷　美和子	
14			小屋　英美里	
15			竹腰　真紀子	栄養士
16			竹内　菜穂	
17			井上　寛子	
18			遠山　峻矢	
19			久保田　景悠	
20			宇佐美　明日実	
21			冨部　柚三子	管理栄養士

参考　1．平成 29 年度（第 11 期生）スポーツチャレンジ助成 対象者

●研究助成

平成 29 年 3 月 1 日時点

区分	氏名（年齢）	分野	チャレンジテーマ	所属
奨励	恵谷（えたに） 隆英（たかひで）（20）	自然科学	音の空間イメージがリズミックな全身運動に与える影響	東京大学大学院　総合文化研究科
	平野（ひらの） 智也（ともや）（28）		片側前腕切断スプリンターのスプリント走におけるスタート局面のパフォーマンスと動作に義手が与える効果	日本体育大学大学院
	八木（やぎ） 優英（まさひで）（29）		超音波診断装置を使用した股関節不安定性の評価法の確立	京都大学大学院 医学研究科人間健康科学系専攻 リハビリテーション科学コース
	鷲野（わしの） 壮平（そうへい）（25）		呼吸筋トレーニングによるトップスイマーの記録向上への挑戦	鹿屋体育大学大学院 体育学研究科
	尾川（おがわ） 翔大（しょうた）（25）	人文社会	戦間期の日本におけるスポーツ政策に関する歴史学的研究	日本体育大学大学院 体育科学研究科
基本	天野（あまの） 達郎（たつろう）（31）	自然科学	運動による汗腺機能の適応機序の解明： カルシトニン遺伝子関連ペプチドの役割	新潟大学 教育学部 健康スポーツ科学講座
	岩山（いわやま） 海渡（かいと）（34）		持久的運動時のグリコーゲン節約を狙った高脂肪食摂取の検討	国立スポーツ科学センター
	大塚（おおつか） 光雄（みつお）（33）		縦断的研究： 400mハードル走において大幅自己記録更新時のレースペースを推定することができるか	立命館大学 スポーツ健康科学部
	佐藤（さとう） 大輔（だいすけ）（36）		「泳げる」ヒトの脳内表象をもとに実践的な評価法を開発する	新潟医療福祉大学 健康科学部 健康スポーツ学科
	佐藤（さとう） 佑介（ゆうすけ）（36）		体操競技あん馬における両足旋回遂行中の眼球と頭部の協応運動	日本大学 商学部
	芝口（しばぐち） 翼（つばさ）（32）		米由来機能性成分による骨格筋ミトコンドリア生合成・機能の亢進とその標的分子の解明	金沢大学先端科学・イノベーション推進機構ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー
	田中（たなか） 嘉法（よしのり）（28）		筋繊維内の乳酸を可視化するイメージング技法の確立	電機通信大学大学院 情報理工学研究科
	宮本（みやもと） 直人（なおと）（39）		高精度 GPS を用いたスキー計測に関する研究	東北大学 未来科学技術共同研究センター
	若林（わかばやし） 斉（ひとし）（38）		現代の子どもの生活運動習慣が体温概日リズムおよび体力・体格に及ぼす影響の縦断的調査	北海道大学大学院 工学研究院
	三重野（みえの）雄太郎（ゆうたろう）（３2）	人文社会	ドーピングをめぐる法的・倫理的問題点に関する研究 ―ドイツ・オーストリア・スイスの状況を参考に	鳥羽商船高等専門学校 一般教育課

平成 29 年度（第 11 期生）スポーツチャレンジ助成 対象者

●体験助成

平成 29 年 3 月 1 日時点

区分	氏名（年齢）	種　目	チャレンジテーマ	所　属
ジュニア	紀平（きひら） 梨花（りか）（14）	フィギュアスケート／選手	2022 年北京オリンピック出場を念頭に、JGPF、全日本ジュニアにて優勝を目指す	関西大学カイザーズフィギュアスケートクラブ
	古畑（ふるはた） 海生（かいき）（14）	水泳／選手	未来へ扉は開いた！さらなる成長を遂げ大好きな水泳を継続、活躍できる第 2 ステージを獲得する	市川高等学校
	村上（むらかみ） レイ（13）	アイスホッケー／選手	北米ジュニアアイスホッケーリーグで活躍できる選手になるための挑戦	苫小牧市立和光中学校
ベーシック	神箸（かみはし） 渓心（けいしん）（16）	スヌーカー（ビリヤード）／選手	スヌーカー世界チャンピオンへの挑戦 ～強豪選手がひしめく中国で、技術・メンタルの質を向上させる～	世界スヌーカー学院（中国）
	高居（たかい） 千紘（かずひろ）（19）	陸上・走り高跳び（障害者スポーツ）／選手	陸上競技・走り高跳びで日本ろう記録を塗り替え、2021 年デフリンピックでメダル獲得を目指す挑戦	日本体育大学
	本堂（ほんどう） 杏実（あんみ）（20）	スキー・アルペン（障害者スポーツ）／選手	2018 年平昌冬季パラリンピック アルペンスキー競技入賞から 2022 年北京大会金メダル獲得への挑戦	日本体育大学
	三島（みしま） 廉（れん）（19）	カヌースラローム／選手	カヌースラローム K1 で五輪初のメダルを獲得するために、2017 年 U23 世界選手権で表彰台を目指す	日本体育大学
	若月（わかつき） 新（あらた）（16）	スキー・アルペン／選手	アルペンスキー世界ジュニア選手権に出場して活躍する！	北照高等学校
アドバンスド	石本（いしもと） 美来（みらい）（19）	ボウリング／選手	自己スキルをより磨き、自分のボウリングで世界に名を轟かせたい	岡山商科大学
	梶原（かじはら） 悠未（ゆうみ）（19）	自転車競技／選手	2020 年東京オリンピック金メダル獲得に向けた戦略 ～自転車競技を日本でメジャースポーツへ～	筑波大学
	工藤（くどう） 開（かい）（23）	空手／選手	東京五輪に空手道が正式種目に決定、日本代表として出場し優勝する	近畿大学大学院
	辻（つじ） 沙絵（さえ）（22）	陸上・中距離（障害者スポーツ）／選手	陸上競技 400mにおいて、東京パラリンピックで金メダル獲得を目指す ～リオでの経験を生かして～	日本体育大学
	三浦（みうら） 優希（ゆうき）（20）	アイスホッケー／選手	日本人史上初の NHL プレイヤーとなり、アイスホッケー日本代表を長野大会以来の五輪出場へ導く選手となる	Waterloo Black Hawks

平成 30 年度（第 12 期生）スポーツチャレンジ助成 対象者

●研究助成

平成 30 年 3 月 1 日時点

区分	氏名	分野	チャレンジテーマ	所属
奨励	大塚 俊（25）（おおつか しゅん）	自然科学	深筋膜は筋力発揮の補助装置としての機能を果たし得るか	早稲田大学大学院 スポーツ科学研究科
	水野 沙洸（26）（みずの さひろ）		高強度運動後における超低温環境（－140℃）への短時間（3 分間）の身体曝露の効果	立命館大学大学院 スポーツ健康科学研究科
	山口 翔大（25）（やまぐち しょうた）		伸張性運動に伴って生ずる筋損傷に対する非侵襲的な新規バイオマーカーの妥当性の検討	早稲田大学大学院 スポーツ科学研究科
基本	阿藤 聡（26）（あとう さとる）	自然科学	骨格筋の核数はレジスタンス運動による筋タンパク質合成の新たな規定因子となり得るか？	立命館大学大学院 スポーツ健康科学研究科
	江間 諒一（31）（えま りょういち）		瞬発力とバランス能力の加齢変化をもたらす主要因の特定： 足関節底屈筋に着目して	芝浦工業大学大学院 理工学研究科
	酒井 紳（31）（さかい しん）		女子競泳選手の跳び出し水平速度向上を目指した台上動作メカニズムの解明	筑波大学 体育系体育センター
	高橋 祐美子（31）（たかはし ゆみこ）		運動後の骨格筋グリコーゲン回復に対して、糖質エネルギー利用を抑制させる栄養素は有効か？	東京大学大学院 総合文化研究科
	武田 紘平（32）（たけだ こうへい）		脱トレーニングと骨格筋のエネルギー代謝	筑波大学 体育系
	森嶋 琢真（30）（もりしま たくま）		レジスタンス運動により低下した血管内皮機能を回復させる新規の運動プログラムの開発	法政大学 スポーツ研究センター
	渡部 喬光（36）（わたなべ たかみつ）		イップスの脳科学： 注意による反応速度の低下をもたらす神経ダイナミクスの解明	University College London
	岡井 理香（34）（おかい りか）	人文社会	アスリートパスウェイにおけるデュアルキャリア教育促進プログラムの開発と実践	広島大学 教育学部健康スポーツ講座
	小木曽 航平（34）（こぎそ こうへい）		タイ農村地域社会におけるロングボートレースの文化機能に関する人類学的研究	早稲田大学 スポーツ科学学術院
	玉井 奈緒（39）（たまい なお）		車いすバスケットボール選手における競技時の座圧と皮膚ダメージとの関係 ―褥瘡予防ケアプロジェクト―	東京大学大学院 医学系研究科
	森田 哲史（38）（もりた さとし）		体育授業における発達の段階に応じた指導計画の開発 ―低・中・高学年における系統的な投の運動指導―	埼玉大学 教育学部附属小学校

平成 30 年度（第 12 期生）スポーツチャレンジ助成 対象者

●体験助成

平成 30 年 3 月 1 日時点

区分	氏名（年齢）	種目	チャレンジテーマ	所属
ジュニア	しのはら　き　り 篠原 輝利 （14）	自転車ロードレース／選手	ツールドフランスで総合優勝をする為に中学卒業後からフランスで勝負！	茨城町立明光中学校
	むらかみ 村上 レイ （14）	アイスホッケー／選手	北米ジュニアアイスホッケーリーグで活躍できる選手になるための挑戦	苫小牧市立和光中学校
ベーシック	うえむら　ゆう　き 上村 勇貴 （23）	陸上（障害者スポーツ）／選手	陸上 800m で、アジア記録の更新、国際大会でのメダル獲得。そして、東京パラリンピックへの挑戦	日本知的障がい者陸上競技連盟
	かみはし　けいしん 神箸 渓心 （17）	スヌーカー（ビリヤード）／選手	スヌーカー世界チャンピオンへの挑戦 ～本場イギリスに渡り、さらなる高みへ突き進む～	日本スヌーカー連盟
	まつした　あ さ か 松下 朝香 （29）	サッカー／審判員	世界で活躍するサッカー審判員を目指し挑戦する	株式会社三勢
	み し ま　れん 三島 廉 （20）	カヌースラローム／選手	カヌースラローム K1 で五輪初のメダルを獲得するために、2018 年世界選手権大会で表彰台に挑む	日本体育大学
	わかつき　あらた 若月 新 （17）	スキー・アルペン／選手	アルペンスキージュニア世界選手権に出場し、上位入賞を果たす	北照高等学校
アドバンスド	きひら　り　か 紀平 梨花 （15）	フィギュアスケート／選手	北京オリンピック出場を念頭に GP シリーズ、全日本選手権、四大陸選手権、世界選手権で表彰台を目指す	関西大学カイザーズ フィギュアスケートクラブ
	きみしま　あ　り　さ 君嶋 愛梨沙（22）	ボブスレー・陸上短距離／選手	ボブスレーと陸上の二刀流で、日本で 5 人目となる夏冬両五輪出場を目指す	日本体育大学
	たかしま　り　さ 髙嶋 理紗 （18）	フェンシング・サーブル／選手	国際大会で経験を積み、フェンシング・サーブル種目において東京オリンピックでのメダル獲得を目指す	法政大学
	と も の　ゆ　り 友野 有理 （17）	卓球（障害者スポーツ）／選手	今の世界順位をさらに上げて、東京パラリンピック出場、メダル獲得を目標とする	日本肢体不自由者卓球連盟
	み う ら　ゆ う き 三浦 優希 （21）	アイスホッケー／選手	日本人史上初の NHL プレイヤーとなり、アイスホッケー日本代表を長野大会以来の五輪出場へ導く選手となる	日本アイスホッケー連盟

参考　2. 平成 28･29 年度（第 10 期）国際スポーツ奨学金対象者

平成 29 年 3 月 1 日時点

海外留学生			
氏名（年齢）	国名	チャレンジテーマ	所属
中田　貴央（26）	オランダ	オランダの医学的視点から、男子サッカー日本代表のワールドカップ優勝に貢献するための土台を築く	FC Den Bosch

外国人留学生			
氏名（年齢）	国名	チャレンジテーマ	所属
金　多允（27）	韓国	下肢キネマティクスとランニング障害の発生の関連性	筑波大学大学院　人間総合科学研究科

※上記２名は２年目の給与

参考 3. 第 29 回 全国児童水辺の風景画コンテスト 入賞者

＜最優秀賞４作品＞

文部科学大臣賞		
	受賞者	市川 千陽（いちかわ ちはる）
	所属・学年（年齢）	神奈川県海老名市立上星小学校２年（７歳）
	作品名	「さかながつれたー」
	表彰日・会場	平成 29 年 12 月 6 日（水）海老名市役所会議室
	贈呈者	海老名市教育委員会 伊藤文康教育長
国土交通大臣賞		
	受賞者	田村 浩恵（たむら ひろえ）
	所属・学年（年齢）	近畿大学附属小学校５年（１１歳）
	作品名	「お母さんのふるさと音戸の瀬戸」
	表彰日・会場	平成 29 年 12 月 12 日（火）近畿大学附属小学校
	贈呈者	大阪港湾空港整備事務所 所長 三島理様
環境大臣賞		
	受賞者	清水 結子（しみず ゆいこ）
	所属・学年（年齢）	聖心女子学院初等科６年（１２歳）
	作品名	「自然豊かな尾瀬沼の鳥や草花たち」
	表彰日・会場	平成 29 年 12 月 10 日（日）ヤマハ発動機東日本営業所
	贈呈者	ヤマハ発動機スポーツ振興財団 常務理事 大庭義隆
農林水産大臣賞		
	受賞者	西中 湖羽（にしなか こはね）
	所属・学年（年齢）	神奈川県海老名市立柏ケ谷小学校３年（８歳）
	作品名	「魚をとる人々」
	表彰日・会場	平成 29 年 12 月 6 日（水）海老名市役所会議室
	贈呈者	海老名市教育委員会 伊藤文康教育長

＜特別賞（9 作品）＞

賞 名	氏 名	作品名
審査員長賞	山口 愛仁（やまぐち よしひと）	夜づりででっかいでっかいウナギ
	鳥取県八頭町立船岡小学校 ４年（10 歳）	
日本マリン事業協会会長賞	北口 勝太郎（きたぐち しょうたろう）	カヤック体験
	大阪府賢明学院小学校 ３年（8 歳）	
日本ユネスコ協会連盟賞	小金澤 愛和（こがねざわ あいな）	きれいなさかながいたよ
	神奈川県海老名市立杉久保小学校 １年（7 歳）	
日本マリーナ・ビーチ協会会長賞	竹下 珀空（たけした はく）	あはは、海草しかつれない
	長崎県南島原市立南有馬小学校 ６年（12 歳）	
ジャパンゲームフィッシュ協会会長賞	稲山 暉人（いなやま あきと）	カジキとぼく
	徳島県徳島市千松小学校 ５年（11 歳）	

賞　名	氏　名	作品名
国立青少年教育振興機構理事長賞	小川　迅（おがわ　じん）	海でボートにのったよ
	愛媛県西予市立野村小学校　３年（8 歳）	
ヤマハ発動機賞	渡邊　志太（わたなべ　しんた）	はじめてのさかなつり
	愛知県江南幼稚園　年長（5 歳）	
YMFS 特別賞(国広富之画伯選)	廣木　寧音（ひろき　ねね）	夏の思い出
	茨城県常陸大宮市立御前山小学校　３年（8 歳）	
YMFS 特別賞 (服部譲二画伯、杉山悦照画伯選)	小谷　優維（こたに　ゆい）	きれいな海で砂のおしろを作ったよ！
	徳島県上板町立神宅小学校　２年（7 歳）	

＜優秀賞（27点）＞

部門	氏　名	学年(年齢)	作　品　名	所　属
金賞	瀧田　安雛（たきだ　あんじゅ）	年長（5 歳）	わぁすごい！下関のハコフグとお船！	愛媛県聖マリア幼稚園
	田村　紳太郎（たむら　しんたろう）	年中（4 歳）	水族館で見た大きな魚	徳島県四国大学附属認定こども園
	ヴァイグロウ　叶藍空（とわいら）	年少（4 歳）	初めての花火大会	愛知県昭和保育園
	山田　樹（やまだ　たつき）	２年（7 歳）	大きいやどかり	茨城県龍ヶ崎市立長山小学校
	西岡　吾俐（にしおか　あり）	３年（8 歳）	ゆたかな海	岡山県就実小学校
	鈴木　栄人（すずき　えいと）	２年（7 歳）	空知川でこいだ1時間の頑ばり	東京都慶應義塾幼稚舎
	長谷川　舞（はせがわ　まい）	４年（10 歳）	カモン！ドルフィン！	東京都品川区立小山小学校
	上原　瑞果（うえはら　みずか）	６年（11 歳）	たこの水揚げ	兵庫県神戸市立高丸小学校
	板原　実乃里（いたはら　みのり）	５年（10 歳）	たくましい漁師のおじさん	高知県土佐市立高岡第一小学校
銀賞	島田　千丈（しまだ　ちひろ）	年長（6 歳）	なつやすみ	高知県みかづき幼稚園
	白川　昇汰（しらかわ　しょうた）	年中（5 歳）	おさかなつりをしたよ	和歌山県おのみなと紀泉台幼稚園
	鈴木　瀬菜（すずき　せな）	年長（6 歳）	いろいろな貝をひろったよ	静岡県磐田市立青城幼稚園
	前田　知歩（まえだ　ちほ）	３年（9 歳）	なるとのうずしおへのかんどう	奈良県近畿大学附属小学校
	岡村　栞奈（おかむら　かんな）	２年（8 歳）	サワガニ	高知県高知市立潮江小学校

部門	氏　名	学年（年齢）	作品名	所　属
銀賞	二階堂（にかいどう） 湊（そあ）愛	１年（7 歳）	さかながいっぱい！！	神奈川県横浜市立永谷小学校
	村瀬（むらせ） 優輝（ゆうき）	６年（11 歳）	にぎやかな海の中	岐阜県美濃市立藍見小学校
	鈴木（すずき） 香帆（かほ）	５年（10 歳）	港で働く人々	神奈川県海老名市立上星小学校
	船場（ふなば） 未咲（みさき）	５年（11 歳）	イルカのむれ	東京都大田区立馬込第三小学校
銅賞	籾木（もみき） 結衣（ゆい）	年長（6 歳）	タコ	宮崎県明星幼稚園
	髙橋（たかはし） 愛実（まなみ）	年長（5 歳）	みんなでいっしょにおよいだよ	兵庫県しもさかべ幼稚園
	佐々木（ささき） 苺（そそ）愛（あ）	年中（5 歳）	ふね	福岡県竹の子保育園
	篠田（しのだ） 魁蓮（かいれん）	１年（7 歳）	自然がくれた夏の思い出	東京都足立区立渕江小学校
	赤坂（あかさか） 知紗（ちさ）	２年（7 歳）	川のスライダーおもしろかったよ	宮城県美里町立不動堂小学校
	津野（つの） 謙蔵（けんぞう）	３年（9 歳）	須崎の海で泳いだ日	高知県高知市立初月小学校
	山下（やました） 莉未（りみ）	４年（10 歳）	いっしょにおよぎたいなぁ	埼玉県春日部市立粕壁小学校
	村上（むらかみ） 心奈子（みなこ）	４年（10 歳）	夕日がひかる海	愛知県あま市立伊福小学校
	井元（いのもと） 優希（ひろき）	６年（11 歳）	でかいコウイカがつれた！！	愛媛県西予市立野村小学校

参考 4. 平成 29 年度 スポーツ教材の提供先団体

	都道府県	団体名	提供教材
1	北海道	札幌正栄会 屯田すずらん保育園	サッカー3 号球
2		社会福祉法人大藤福祉会 屯田大藤保育園	サッカー3 号球
3		札幌市立きくすいもとまち幼稚園	サッカー3 号球
4		恵庭市立松恵小学校	タグラグビーセット（70＋105）
5		札幌市立南月寒小学校	サッカー4 号球
6		札幌市立向陵中学校 陸上部	タグラグビーセット（105）
7		鷹栖町スポーツ推進委員会	タグラグビーセット（70＋105）
8		釧路市大楽毛児童センター	タグラグビーセット（70）
9	青森県	八戸市立日計ヶ丘小学校	サッカー4 号球
10		東通村立東通小学校	サッカー3 号球
11	秋田県	大館市立北陽中学校	サッカー4 号球
12	岩手県	釜石市立鵜住居小学校（※）	タグラグビーセット（70＋105）
13		陸前高田市立矢作小学校（※）	タグラグビーセット（70）
14		エブリの会	タグラグビーセット（105）
15	宮城県	多賀城市立多賀城八幡小学校（※）	サッカー4 号球
16		石巻市立大街道小学校（※）	タグラグビーセット（70）
17		気仙沼市立九条小学校	サッカー4 号球
18		気仙沼市立津谷小学校（※）	タグラグビーセット（70＋105）
19		蔵王町立円田小学校	タグラグビーセット（70）
20	福島県	桑折町立醸芳小学校	タグラグビーセット（70）
21		いわき市立泉中学校	サッカー4 号球
22		相馬市立向陽中学校	サッカー4 号球
23	東京都	台東区立上野小学校	タグラグビーセット（70）
24		府中市立府中第四小学校	タグラグビーセット（105）
25	神奈川県	マーヤ学園 アソカ幼稚園	サッカー3 号球
26		大和山王幼稚園	サッカー3 号球
27		学校法人長友学園 大沢第二幼稚園	サッカー3 号球
28		綾瀬市立綾西小学校	タグラグビーセット（70）
29		神奈川県立平塚養護学校	タグラグビーセット（70＋105）
30	千葉県	香取市立瑞穂小学校	タグラグビーセット（70）
31		八街市立交進小学校	タグラグビーセット（70）
32		山武市立緑海小学校	タグラグビーセット（70）
33		鋸南町立鋸南小学校	タグラグビーセット（105）
34	茨城県	常総市立豊岡小学校	タグラグビーセット（70）
35		坂東市立逆井山小学校	タグラグビーセット（70）
36		神栖市立柳川小学校	サッカー4 号球
37		日立市立塙山幼稚園	サッカー3 号球
38		日立市立宮田小学校	サッカー4 号球

	都道府県	団体名	提供教材
39	埼玉県	学校法人わらび学園　わらび幼稚園	サッカー3 号球
40		久喜市立鷲宮小学校	タグラグビーセット（70）
41		久喜市立小林小学校	タグラグビーセット（70）
42		星野学園小学校	サッカー4 号球
43		学校法人石嶺学園　美原幼稚園	サッカー3 号球
44		上尾市立西小学校	タグラグビーセット（70）
45	群馬県	伊勢崎市立宮郷第二小学校	サッカー4 号球
46	新潟県	小千谷市立千田小学校	サッカー4 号球
47		学校法人恵愛学園　幼稚園型認定こども園栄光幼稚園	サッカー3 号球
48		新潟市立笠木小学校	タグラグビーセット（70）
49	長野県	上田ハンドボールクラブスポーツ少年団	タグラグビーセット（70）
50		松本市立女鳥羽中学校	タグラグビーセット（105）
51	富山県	魚津市立西部中学校	タグラグビーセット（105）
52	石川県	石川県立七尾特別支援学校　珠洲分校	サッカー3 号球
53	福井県	若狭町立三方中学校	タグラグビーセット（105）
54	静岡県	裾野市立東小学校	タグラグビーセット（70）
55		小山町立成美小学校	タグラグビーセット（70）
56		富士市立東小学校	タグラグビーセット（70）
57		牧之原市立菅山小学校	タグラグビーセット（70）
58		島田市立島田第五小学校	タグラグビーセット（70）
59	愛知県	みよし市立緑丘小学校	タグラグビーセット（70）
60	岐阜県	山県市立高富中学校	サッカー4 号球
61		学校法人平田学園　旭ヶ丘幼稚園	サッカー3 号球
62		学校法人高砂学園　羽島幼稚園	サッカー3 号球
63		いづみ第２幼稚園	サッカー3 号球
64		海津市立高須小学校	タグラグビーセット（70＋105）
65	三重県	鈴鹿市立桜島小学校	タグラグビーセット（70）
66		名張市立南中学校	タグラグビーセット（70＋105）
67		三重県立特別支援学校　玉城わかば学園	サッカー4 号球
68	滋賀県	栗東市立大宝西小学校	サッカー4 号球
69		長浜市立びわ南小学校	サッカー4 号球
70	大阪府	大阪市立靭幼稚園	タグラグビーセット（70）
71		大阪市立島屋小学校	タグラグビーセット（70）
72		大阪府立とりかい高等支援学校	サッカー4 号球
73		枚方市立桜丘小学校	タグラグビーセット（70）
74		枚方市立樟葉北小学校	タグラグビーセット（70）
75		四條畷市立田原小学校	タグラグビーセット（70）
76		大阪市立東我孫子中学校	サッカー4 号球
77		泉南市立新家小学校	サッカー4 号球
78		泉南市立鳴滝小学校	サッカー4 号球

	都道府県	団体名	提供教材
79	大阪府	泉大津市立条南小学校	サッカー4 号球
80	京都府	学校法人西芳学園　さかいだに幼稚園	タグラグビーセット（70）
81		西小倉幼稚園	タグラグビーセット（70）
82	奈良県	天理市立山の辺小学校	タグラグビーセット（70）
83		葛城市立忍海小学校	サッカー3 号球
84	兵庫県	百合学院小学校	サッカー4 号球
85		学校法人阪急幼稚園	サッカー3 号球
86		西宮市立生瀬小学校	タグラグビーセット（70）
87		新温泉町教育委員会　生涯教育課	タグラグビーセット（70）
88		姫路市立安室中学校	タグラグビーセット（105）
89		姫路市立置塩小学校	サッカー4 号球
90		姫路市立大白書中学校	タグラグビーセット（70＋105）
91		姫路市立家島中学校	サッカー4 号球
92		姫路市立香呂南小学校	タグラグビーセット（70）
93		市川町立甘地小学校	タグラグビーセット（70）
94	鳥取県	鳥取市立美和保育園	サッカー3 号球
95		三朝町立賀茂保育園	サッカー3 号球
96	岡山県	倉敷市立万寿東小学校	サッカー4 号球
97	広島県	学校法人奥山学園　桜ケ丘幼稚園	サッカー3 号球
98	香川県	綾川町立滝宮小学校	サッカー4 号球
99		三豊市体育協会・三豊市スポーツ少年団	タグラグビーセット（70）
100	徳島県	鳴門教育大学附属小学校	タグラグビーセット（70）
101		徳島市立内町幼稚園	サッカー3 号球
102		阿波市立八幡小学校	サッカー4 号球
103	高知県	土佐市立高石小学校	タグラグビーセット（70）
104		日高村佐川町学校組合立加茂中学校	タグラグビーセット（105）
105	福岡県	芦屋町立芦屋東小学校	タグラグビーセット（70）
106		篠栗町立篠栗幼稚園	サッカー3 号球
107		川崎町立川崎小学校	タグラグビーセット（70）
108	佐賀県	社会福祉法人武雄南部福祉会　花島保育園	サッカー3 号球
109	長崎県	長崎市立土井首小学校	タグラグビーセット（70）
110	大分県	臼杵市立市浜小学校	タグラグビーセット（70＋105）
111		大分県立宇佐支援学校	サッカー4 号球
112	宮崎県	学校法人五ヶ瀬学園　えほんの森幼稚園	サッカー3 号球
113		門川町立平城保育所	サッカー3 号球
114	鹿児島県	鹿児島県立桜丘養護学校	タグラグビーセット（70＋105）
115		南種子町立大川小学校	サッカー4 号球
116		社会福祉法人慈孝会　はなぶさ保育園	サッカー3 号球
117		鹿児島県立大島養護学校	サッカー4 号球
118	沖縄県	糸満市立真壁小学校	タグラグビーセット（70）

	都道府県	団体名	提供教材
119	沖縄県	八重瀬町立新城小学校	タグラグビーセット（70）
120		浦添市立前田小学校	サッカー4 号球
121		浦添市立沢岻小学校	サッカー4 号球
122		中城村立中城小学校	タグラグビーセット（70）
123		うるま市立平敷屋小学校	サッカー4 号球
124		IHEYA.FC	サッカー4 号球
125		石垣市立白保小学校	サッカー4 号球

参考 5. 第 26 回ＹＭＦＳセーリング・チャレンジ・カップ ＩＮ 浜名湖 参加団体と上位入賞者

■参加クラブ：40 団体 参加隻数：130 隻 参加人数：153 名

ＮＯ	クラブ名	隻数	人数
1	横浜ジュニアヨットクラブ	3	3
2	レーザー津フリート	1	1
3	静岡県セーリング連盟浜名湖ジュニアクラブ	7	7
4	なごやジュニアヨットクラブ	1	1
5	碧南セーリングクラブ	12	20
6	清水ヨットスポーツ少年団	2	2
7	広島セーリングスクール	1	1
8	横浜市民ヨットハーバー ジュニアヨットクラブ	4	4
9	いわき海星高等学校	3	4
10	Ｂ＆Ｇ福岡ジュニアヨット海洋クラブ	1	1
11	YMFS ジュニアヨットスクール葉山	7	7
12	静岡県立相良高等学校ヨット部	4	6
13	諏訪湖ジュニアヨットクラブ	1	1
14	江の島ヨットクラブジュニア	8	8
15	青森県立大湊高等学校	3	4
16	B&G 時津海洋クラブ	1	1
17	清風高校ヨット部	1	1
18	神奈川県ユースヨットクラブ	4	5
19	関東学院中学校高等学校ヨット部	3	4
20	山中湖中学校ヨット部	15	15
21	江東区立小中学校セーリング部	7	7
22	和歌山県立桐蔭高等学校	1	1
23	三重県ヨット連盟ジュニアユースヨットクラブ	2	2
24	千葉市立稲毛高等学校附属中学校	4	7
25	北海道セーリング連盟	4	4
26	Youth Team TOKYO	1	1
27	静岡県立熱海高等学校ヨット部	3	8
28	愛媛県セーリング連盟	1	1
29	香川県立高松商業高等学校	2	2
30	滋賀県セーリング連盟	2	2
31	慶應義塾高等学校ヨット部	1	2
32	丸玉セーリングクラブ	1	1

ＮＯ	クラブ名	隻数	人数
33	B&G 高松海洋クラブ	5	5
34	海陽海洋クラブ	3	3
35	夢の島ヨットクラブ	2	2
36	千葉ヨットビルダーズクラブジュニア	3	3
37	三重県立津工業高等学校	2	2
38	リスクマネジメントセーリングジュニア	2	2
39	広島ベイディンギークラブ	1	1
40	Ｂ＆Ｇ別府海洋クラブ	1	1
合　計		130	153

■上位入賞者（開催各クラス）

ＯＰ初級（参加１４艇）		
	氏　名	所　属
総合１位	鵜野　環（うの　たまき）	北海道セーリング連盟
総合２位	石井　貴大（いしい　たかひろ）	千葉市立稲毛高校付属中学校
総合３位	岩波　将吾（いわなみ　しょうご）	江の島ヨットクラブジュニア
女子１位	鈴木　しおん（すずき　しおん）	横浜ジュニアヨットクラブ

ＯＰ上級（参加２６艇）		
	氏　名	所　属
総合１位	西村　拓真（にしむら　たくま）	横浜ジュニアヨットクラブ
総合２位	鈴木　海翔（すずき　かいと）	横浜市民ヨットハーバージュニアヨットクラブ
総合３位	重松　　陽（しげまつ　ひなた）	夢の島ヨットクラブ
女子１位	市橋　愛生（いちはし　まなせ）	B&G 福岡ジュニア海洋

ミニホッパー級（参加１７艇）		
	氏　名	所　属
総合１位	高橋　果乃子（たかはし　かのこ）	静岡県セーリング連盟浜名湖ジュニア

レーザーラジアル級（参加１６艇）		
	氏　名	所　属
総合１位	水田　隆文（みずた　りゅうもん）	清風高校ヨット部
総合２位	西尾　拓大（にしお　たくひろ）	和歌山県立桐蔭高校
総合３位	桐井　航汰（きいり　こうた）	江の島ヨットクラブジュニア
女子１位	三浦　帆香（みうら　ほのか）	千葉ヨットビルダーズクラブジュニア

レーザー４．７級（参加２７艇）		
	氏　名	所　属
総合１位	元尾　帆斗（もとお　はんと）	B&G 時津海洋クラブ
総合２位	黒田　浩渡（くろだ　はると）	レーザー津フリート
総合３位	前田　海陽（まえだ　かいよう）	広島セーリングスクール
女子１位	須田　英実子（すだ　えみこ）	滋賀県セーリング連盟
女子２位	山崎　彩加　（やまざき　あやか）	清水ヨットスポーツ少年団
女子３位	渡邊　桜香　（わたなべ　おうか）	Youth Team TOKYO

ＦＪ級（参加１１艇）		
	氏　名	所　属
総合１位	岸下　海渡（きしした　かいと） 都築　渉兵（つづき　しょうへい）	碧南セーリングクラブ

４２０級（参加１７艇）		
	氏　名	所　属
総合１位	澤井　寛人（さわい　ひろと） 梶川　璃久（かじかわ　りく）	碧南セーリングクラブ
総合２位	岩月　愛望（いわつき　あいみ） 大須賀　梨歩（おおすか　りほ）	碧南セーリングクラブ
総合３位	山田　大夢（やまだ　ひろむ） 石川　魁人（いしかわ　かいと）	碧南セーリングクラブ

荒田忠典メモリアルトロフィー	
氏　名	所　属
岩月　愛望（いわつき　あいみ） 大須賀　梨歩（おおすか　りほ）	碧南セーリングクラブ